ARDFなう

ARDF

ＩＡＲＵ世界選手権大会で日本人選手が優勝!!

JJ4KME　古城 朋和

平成３０年(2018年)９月２日から８日まで、韓国北東部の町束草(そくちょ)で開催された、第１９回ＩＡＲＵ ＡＲＤＦ世界選手権大会・クラシック競技144MHz帯において、愛媛県から参加されたJH5FUL松浦孝行さんがＭ７０カテゴリで優勝されました。

その時の体験談などをうかがいました

－競技時に心がけていることはありますか

６０になった頃から、地図にある道(小径)を通るようにしています。過去に何度も藪に入って苦しい思いをしてきました。体力の衰えを感じ始めてからは特に気をつけています。

－スタート待機中の心境は

受け取った地図を見て、ゴールまでに４・５個の山越えを覚悟しました。標高は低そうでしたが４・５個の山越えというのはやはり体力を消耗します。

－スタート後の様子を教えてください

144MHz帯は反射があり、高台での方向探索が重要なので、スタート後は山の上で５分間、ＴＸの方向探索を行いました。１番以外はどれも強く入っていましたが、最も強かった５番を取りに行きました。

その後、一山越えると２番と３番が強く入り始め、１番と４番は聞こえにくくなってきました。

２・３の山越えをしても見つからず、コース取りに不安を感じていたが、途中で審判員に出会って安心しました。

開けた場所に出ると１番が強く入り始めたため少し引き返して見つけ、４番の送信タイミングを待って４番も取りに行きました。その後、行き止まりの小径に入ってしまい、６～７分ほどロスしました。後から地図を見ると、植生の境目に小径が描いてありました。

－優勝あるいは上位入賞すると思いましたか

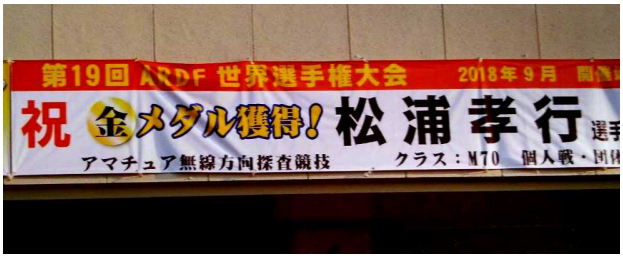
時間内にゴールしたものの１１１分もかかっており、上位入賞するなどとても思えませんでした。優勝していることは他の日本人メンバーから聞いて知りました。

「運もまぐれも実力のうち」と言ったところでしょうか・・・

－参考までにどんな受信機をお使いですか

３０年ほど前に買った小林電気の受信ユニットに、指向性の鋭いＨＢ９ＣＶの４エレアンテナと５段階のステップアッテネーターを付けて使っています。今や「頭の一部」です

表彰式での松浦さん



地元の役場に横断幕が掲げられました

ゼロから始めたＡＲＤＦ

土屋 沙樹

○私に反応している！

「アマチュア無線」や「ＡＲＤＦ」という言葉も知らないまま高校に入学した私を待っていたのは、パーカーのフードにまでチラシが詰め込まれるほどの部活動勧誘でした。その中で一際目を引いたのが、受信機のイラストとともに「君に反応している！」と印刷された無線部のチラシ。このチラシが頭から離れず思いきって顧問の先生に話かけてみました。

「アマチュア無線ってなんですか？どういうことするんですか？」という問いに「無線に興味あるのか！ちょうど今週末大会があるから出てみればいいよ。申し込んでおくから」と返ってくる、予想外な流れに驚きつつ、茨城県大会が初陣となりました。

この大会では、先輩方の大活躍により、私の高校は団体で全国大会への出場が決定。それに便乗して参加した私は運良く新人賞を頂き、更には世界大会の出場権まで頂いてしまいました。

○悔しさを超えて虜（とりこ）になる

〝運〟を味方に付けて高校１年の夏に出場した世界大会では、失格ギリギリのタイムや入賞へ一歩届かなかった順位に悔しさを覚え、思うような結果が出せないもどかしさを体験することになりました。

この原因が私自身にあることは察していました。受信機の仕組みや地図の読み方もろくに理解せずがむしゃらに走りまくり、持ち前の運と体力に頼って競技に臨んでいた私に好成績が続くはずもありません。

ＡＲＤＦというのは地形や電波の特性、受信機の癖など様々な条件を考慮し、体力だけでなく頭も使わなければいけない競技。それなのに私は自信のあった体力と運の良さに頼り切って、頭脳という最も大切な部分を完全に放棄していたのです。

しかし、この経験をしたことで私はＡＲＤＦに惹かれていくことになります。ド素人が運良く好成績を残せることもあれば、ベテラン選手が制限時間超過や無探索で失格してしまうこともあります。そんなハラハラドキドキ感に魅了され、いつしか私もアマチュア無線の虜になっていました。

○技術を補う

二度の失敗を味わった私は、まず地図読みの練習を始めました。基本は山岳部の助っ人をしながら教えてもらいました。

そしてもちろん、無線機についてもより詳しく知らなければいけません。それまでは学校の受信機を借りて使っていましたが、これを機にマイ受信機の購入を決意。なるべく多くの大会に出場し経験を積みました。

高校３年の１０月に出場した全日本大会でこの成果が現れ、3.5MHz・144MHz帯とも優勝し、再び世界大会への出場権を獲得、前大会の雪辱を果たすことができました。２年越しのリベンジマッチとなったモンゴルでの世界大会では個人３位・団体２位という好成績を修め、高校生活最後の活動を締めくくることができました。

○ＡＲＤＦに終わりは無い

卒業を機に引退してしまう人が多い他のスポーツに対し、ＡＲＤＦは歳をとってもずっと続けられる生涯スポーツです。

無線の知識が無いとか、今から始めてももう遅いなどということはありません。なにしろ「ＡＲＤＦ」という言葉を知ってからたった半年で世界大会にまで出場できてしまった人もいるんですから！

逆にここまでの経験を積んできた私でも課題は山積み。今でもいろいろ試行錯誤し、先輩方からたくさんのアドバイスをもらいながら頑張っています。

みなさんも新しい趣味に！体力作りに！世界大会に出て海外に進出するために！私達と一緒にＡＲＤＦ楽しみませんか？？

アマチュア無線
そしてＡＲＤＦとの出会い

JI1SUW　宮内 亮輔

○高校入学が全ての始まり

アマチュア無線、そしてＡＲＤＦと出会ったのは、高校に入ってからでした。その頃はＡＲＤＦどころかアマチュア無線というものを全く知らないまま見学に行ったのが始まりです。先輩方からは「宝探しみたいで楽しいよ」と言われ、体験していた私はすぐに入部を決めました。当時、アマチュア無線部はまだ同好会だったため、他の部活と兼部している人が多く、既に運動部に入部を決めていた僕でも気軽に入ることができました。入会後、顧問の先生と話をして初めてアマチュア無線の存在を知りました。そこが全ての始まりでした。

○群馬で初陣を飾る

初めての大会は高校１年生の５月に行われたＡＲＤＦ群馬県大会での3.5MHzクラシックでした。見知らぬ土地でしたが地図を見ながら頑張って探しました。そして送信機を見つけた時はとても嬉しく、その時の光景は今でも覚えています。しかし当時は技術もなく、２個ほど探して制限時間が迫ってきたためゴールへと向かいました。ゴールへと向かう途中、たまたまＴＸを発見し、こんなこともあるのかと競技中で疲れているのにもかかわらず笑ってしまいました。そんなこんなで発見数は３個で５位入賞と初陣を飾ることができました。

○ＡＲＤＦの沼

その後は受信機の製作会に参加したり、審判員の資格を取得するなど、この競技へどんどんのめりこんでいき、高校卒業後も現役で続けています。高校では受信機を借りていましたが、今では自分専用のものを購入し、使いやすいようにカスタマイズしています。受信機に個性を出すこともまた一つの楽しみだと思います。全国各地から参戦した方々とお話しできるのももＡＲＤＦならではのことだと思います。

○ＡＲＤＦに必要なもの

フィールドを動き回るための体力と、地図を読み最適なルートを通るための知力が必要です。それに加えて経験や運などの要素も入ってくるため、他のスポーツよりも違った楽しみ方ができます。ベテランでも失敗することもあり、初心者が上位に入り込む「ビギナーズラック」もよく起こります。これもまた楽しみになります。大会の頻度もオフシーズンはありますが、月に１～３回程と好きなタイミングで参加できます。気になると思ったら、近くの大会を見学させてもらうなどをしてみるといいと思います。ＡＲＤＦを楽しんでいる人は皆優しい方々なので、初心者の方々でも優しく対応してくれます。

ぜひＡＲＤＦに挑戦してみてください。

ハムフェア2019配布用 V1.0
編集：ＪＪ４ＫＭＥ　古城朋和
表紙：鈴　木　　る　り　子